

2016 年度事業報告

2016.4.1～2017.3.31

認定特定非営利活動法人アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんねっと

〒604-8273 京都市中京区姉西洞院町 542 サンフィールドビル 3 階
TEL&FAX (075) 252-5088



いつも、ぴいちゃんねっとの活動を支援してくださいまして、ありがとうございます。2016 年度の事業報告をお届けします。

ぴいちゃんねっとは、2005 年 4 月に任意団体としてスタートしました。以来、多くの方々に支えられて、食物アレルギーの子どもと保護者を支える活動に取り組んで来ました。本法人が、今日に至るまで活動を続けることができたのも、ひとえにかかわってくださった皆様のおかげです。心より御礼申し上げます。

昨年度は、公益財団法人社会貢献支援財団より、第 47 回社会貢献者表彰を頂くことができました。私たちぴいちゃんねっとの地道な活動が評価されたことを、とても嬉しく思います。

これからも、食物アレルギーの子どもと家族の居場所づくり、安心して暮らせる環境づくり、そしてひとり一人の子どもが健やかに育つ、住みよい地域や社会づくりに向けて、取り組んでいきたいと思ひます。

皆さまの一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2017 年 5 月 理事長 空閑 浩人

サポートデスク

つどいの広場（厚労省：地域子育て支援拠点事業）との併設となって2年目を迎えたサポートデスクは、食物アレルギーの子どもや保護者のセーフティネットとしての場と、地域社会に向けた社会的理解の場としての2つの役割を試行錯誤を繰り返しながら様々な取り組みにチャレンジしてきました。特に昨年度の課題であった、つどいの広場利用として来所される地域の一般来所者への社会的理解を促すために「食物アレルギー」のことや、当法人の「食物アレルギーに関する事業・活動」に触れていただく機会を設けました。

- ① 初来所の方たちに、法人のリーフレットやニュースレターを渡し、活動や事業を説明
- ② つどいの広場でのイベント（ベビーヨガセラピーや工作）時に交流タイムを設け、飲み物とアレルギーフリーのお菓子を食べながら食物アレルギーに触れる機会を作る
- ③ ニュースレター発送等のボランティアを、つどいの広場利用者にも拡大

小さな取り組みではありますがこれらのことがきっかけで、サポーターズショップでお菓子を購入されたり、イベント（地蔵盆・クリスマス・学び舎など）に参加されるなど、アレルギーの有無に関わらず皆が安心・安全に楽しく過ごす光景が増えてきています。

一方、アレルギーの学び舎第1期生の集まり「Loveぽっぽ」は、残念ながら一度も交流会等の開催はありませんでした。当事者による自発的な活動への関わり方、支え方は課題を残しています。

サポートデスクは、毎週月曜日と水曜日から土曜日の10時から16時に自由にご利用いただけます。日によっては、講座やイベントを開催しています。お友達同士や、グループで貸切利用できる「貸切ぴいちゃん」の仕組みもスタートしました。2016年度は、一度もご利用がありませんでしたが、2017年度はお知らせなどを積極的に行い、自発的な活動等へ結びつけていきたいと考えています。

4月	8日 15日・20日 28日	ふわふわぴいちゃん 食物アレルギー相談日 ちゃちゃ茶
5月	18日・28日 23日 25日	ふわふわぴいちゃん ちゃちゃ茶、3周年イベント 食物アレルギー相談日
6月	1・30日 16・25日 18日	ふわふわぴいちゃん 食物アレルギー相談日 ちゃちゃ茶
7月	8・28日 15・25日 21日	ふわふわぴいちゃん 食物アレルギー相談日 ちゃちゃ茶
8月	5日 18日 25日 27日	地蔵盆 ふわふわぴいちゃん ちゃちゃ茶 アレルギーの学び舎①
9月	5・15日 8・24日 15日 28日	食物アレルギー相談日 アレルギーの学び舎②③ ちゃちゃ茶 ふわふわぴいちゃん
10月	5日 6・27日 7日 20日 21日	ふわふわぴいちゃん アレルギーの学び舎④⑤ ちゃちゃ茶 ハロウィンパーティー 食物アレルギー相談日
11月	2・16日 10・26日 10日 17日 18日	ふわふわぴいちゃん アレルギーの学び舎⑥⑦ ケーキ・おせちお味見会 ちゃちゃ茶 食物アレルギー相談日
12月	5・15日 7・21日 8日 10日 17日 23日	食物アレルギー相談日 ふわふわぴいちゃん ドレミファドーナツ♪ ちゃちゃ茶 アレルギーの学び舎⑧ クリスマス会
1月	11・18日 19日 25日 27日	ふわふわぴいちゃん アレルギーの学び舎⑨⑩ 食物アレルギー相談日 ちゃちゃ茶
2月	1・15日 9日 15日 18日 23日	ふわふわぴいちゃん アレルギーの学び舎⑩ 食物アレルギー相談日 ちゃちゃ茶 Ban!ぼん!バーンと伴ごはん
3月	1・15日 9日 10日 29日	ふわふわぴいちゃん かきくけクッキー♪ 食物アレルギー相談日 ちゃちゃ茶

アレルギーの学び舎

食物アレルギーを楽しく学ぶ
食物アレルギーを正しく学ぶ

ひいちゃん ALLEZ ふろじえくと

Allez は、フランス語で「皆！」「全部！」という意味です。
食物アレルギーの家族に限らず、皆と一緒に「行こう！」という思い
とアレルギーへの「アレ」をつなげて、プロジェクティブにしました。

「食物アレルギーかも・・・」
「食物アレルギーって言われたけど・・・」これからどうすればいいのかな？
「お友達に食物アレルギーなんだけど」何かできるかな？
そんな不安や疑問をみんなで一緒に学び合いませんか。
1人より2人、2人より3人。3人よりもっともっとたくさん。みんなで一緒にだと心強いね。

2期生募集

日	科目・講師	内容	時間	費用	定員	保育
8月27日(土)	食物アレルギーの基礎と治療 青山 三智子 日本アレルギー学会専門医 京都府立こども発達支援センター 小児科医長	食物アレルギーの治療は近年で大きく様変わりしました。「厳格除去」から「必要最小限の除去」へ。 食物アレルギーについて、発症の原因や仕組み、混乱しがちなアトピー性皮膚炎についても正しく理解します。また、検査（血液検査・負荷試験など）や治療（除去食・免疫療法など）の時期と進め方を学びます。	10時～12時	受講料 10講座 8,000円（研修費は別途） （正会員・サポーターは5,000円）	6名	見守り保育あり・1人100円（保険料） お申し込みは、メール・電話・サポートデスク受付にて
9月8日(木)	交流会 (外出・外泊時の工夫)	食物アレルギーがあると、外出や旅行には行きづらいものです。しかし、食物アレルギーがない子と同じ様にいるんな経験もさせてやりたい、そんな悩みをテーマに交流します。	9月24日(土)	レシビ紹介と栄養のお話① (米粉)	藤原 早苗 管理栄養士	身近にある食材を使って、食事を楽しめ、栄養バランスに配慮したメニュー提案をします。 特に、乳幼児に多い「乳・卵・小麦」の除去にスポットをあて、第1回目は、「米粉」をテーマに簡単な実演と栄養価のお話を管理栄養士により行います。
10月6日(木)	毎日のスキンケアとぬり薬の使い方 他 畑 美佐子 鎌倉小児保健医療センター 管理師 小児アレルギーエデュケーター	「ステロイドは怖い、副作用が心配」など、まだまだ敬遠への理解は正しくなされていないことがよくあります。この講座では、日ごろのお肌のお手入れや、外用薬の基本知識と使い方を実習を交えながら学びます。	10月27日(木)	集団生活での食物アレルギー(入園・入学準備)	小谷 智恵 ひいちゃんねっと事務局長	入園入学を機に、保育・給食・授業・校外学習など、食事前の配慮が必要な場面が多くあります。入園・入学に備えて、随時別で保護者としてしておくべき準備等を説明します。
11月10日(木)	交流会 (家族・親戚との関わり)	家族・親戚などに食物アレルギーを理解してもらうのは、意外と難しいものです。「食べられない」ことが、「かわいそう」と思われがちで、「少しべらり」の気持ちで食べさせてしまふ事故もよく起こっています。周りに食物アレルギーをどの様に伝えるかをテーマに交流をします。	11月26日(土)	レシビ紹介と栄養のお話② (カルシウム)	藤原 早苗 管理栄養士	身近にある食材を使って、食事を楽しめ、栄養バランスに配慮したメニュー提案をします。 特に、乳幼児に多い「乳・卵・小麦」の除去にスポットをあて、第2回目は、「カルシウム」をテーマに簡単な実演と栄養価のお話を管理栄養士により行います。
12月17日(土)	レシビ紹介と栄養のお話③ (鉄)	身近にある食材を使って、食事を楽しめ、栄養バランスに配慮したメニュー提案をします。 特に、乳幼児に多い「乳・卵・小麦」の除去にスポットをあて、第3回目は、「鉄」をテーマに簡単な実演と栄養価のお話を管理栄養士により行います。	1月19日(木)	災害時の備え (ポリ袋クッキング)	三好 英 ひいちゃんねっと	食物アレルギーがあると、被災時、避難所での配給食は食べられない事がほとんどです。食物アレルギー対応の非常食の説明、子どもが保護者から頼られて被災した時への対応に備えます。また、ポリ袋を使った非常時の食事の作り方を学びます。
2月9日(木)	交流会 (子どもへのアレルギーの伝え方)	子どもにどうやって自分の食物アレルギーを伝えますか？ お友達と一緒に食べられないことへの説明も子どもとの向き合い方をテーマに交流をします。				

貸し切りぴいちゃん

サポートデスクぴいちゃんをレンタルスペースとしてご利用いただけるようにしました。食物アレルギーでお悩みのママ同志、仲良しのお友達グループ、お子さんのお誕生日会など、ぴいちゃんを貸し切ってゆっくり過ごすことができます。
「こんなことできるかな？」とメールまたは電話にてご相談ください。

- ✿希望利用日の10日前までに予約下さい。
- ✿特定原材料7品目+大豆以外の持ち込み可。
- ✿調理器具、食器等もご利用いただけます。
- ✿施設利用料はありません。
- ✿ワンドリンク制 【会員・サポーター100円、一般200円】



みんなでワイワイ
手作りランチ会



気になることの
勉強会



アレルギー・フレンドリー
なお菓子を囲んで
ほっこりティータイム

☆イベント（地蔵盆）



大型絵本と手遊び



手形アートでかばんやモビールを作りました

お昼ご飯は親子ポリ袋クッキングです。カレーやシチューをみんなで作ってみんなで食べました。



ハウス食品(株)さんのルーを使用しました



風船運びゲームとその後のほっこりタイム



地蔵盆のメインイベントといえば、お坊さんと一緒に数珠回し。ぼくぼくぼく・・・と順番に木魚を叩き、無病息災を祈願しながらお念仏を唱えて大数珠を回しました。お供えのお菓子は、全てアレルギーフリーです。袋いっぱいのお菓子は、子どもたちは大喜びでした。



毎年、京都府木津川市の西念寺のご住職にご協力いただいております。

☆イベント（クリスマス会）



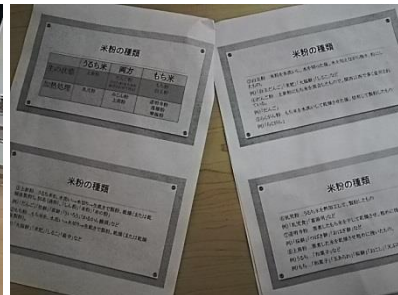
はなはなぷーさんマジックショー クリスマスケーキをいただきます！！



クリスマスリース作り。素敵な作品が勢ぞろい



☆アレルギーの学び舎（レシピ紹介と栄養のお話：テーマ「米粉」）



様々な米粉の特徴や調理のコツを学んだ後、マフィンを作りました。



☆アレルギーの学び舎（スキンケア）



エドクターの看護師さんから、泡の上手な立て方や軟膏の使い方などを実習を交えながら詳しく教えてもらいました。



☆ドレミファ♪ドーナツ



アレルギーフリーのお菓子工房「笑え種」のパティシエさんから、米粉とタピオカ粉で作るドーナツを教えてもらいました。簡単な材料と工程で、家ですぐに作れるレシピは、大助かりですね。

ぴいちゃん ホット ニュースレター

No.100 から No.111 まで毎月 400~800 部を発行しました。会員・サポーターへ発送するとともに、地域の子育て支援施設などにも置いていただいています。イベント案内・報告、医師（当法人理事）による『お医者さんからのお役立ち情報』、大好評の漫画『しあわせのみつかけた』などを掲載しています。また、スタッフのひとりごとや編集後記の掲載を始め、カレンダー&イベント詳細のページを大幅にリニューアルするなど、紙面の充実を実現できた 1 年でした。スタッフのおすすめ商品紹介や、実際におやつを作ってみたレシピや試食レポートも掲載するなど、新たな企画にも取り組んだ結果、「読み応えあったよ！」などの感想もいただけるようになりました。

また、ニュースレターの発送作業を、つどいの広場に来所するお母さんにも手伝ってもらえるよう案内を行っています。利用者に運営に関わっていただけるようになったことで、積極的な意見交換なども行われるようになりました。

食物アレルギーの子どもの保護者に「一人じゃないよ」を伝えるニュースレターは、ぴいちゃんねっとの活動の原点でもあります。読んだら元気が出る、心が軽くなる…そんな存在であってほしいと思い、2017 年度も紙面作りに更なる力を注いでいきたいと思えます。



ホームページ

ぴいちゃんねっとの理念、沿革なども含め、たくさんの情報を詳しく分かりやすく紹介しています。

ホームページからは寄付や会員・フレンズの申し込みや、アレルギー大学の受講申込みをしたり、サポーターズショップで取り扱っている商品の原材料表示を確認することもできます。多くの方に役立てていただけるよう、今後もコンテンツの充実を図っていきます。

●<http://www.allergy-k.org/>



Facebook

サポートデスクのリアルタイムな情報やイベントの報告をお届けしています。ぴいちゃんねっとへの「いいね！」も 900 件を越えました。一月あたり 10~20 の記事を更新し、多くの方に情報をお届けすることができました。



●<https://www.facebook.com/allergy.kyoto>

つどいの広場ぴいちゃん専用の Facebook ページも開設しています。

●<https://www.facebook.com/つどいの広場-ぴいちゃん-京都市子育て支援いきいきセンター-904055702974645/>

サポーターズショップ

サポートデスクに併設されているサポーターズショップでは、以下のような新たな取り組みを導入し、より多くの方に喜んで商品をご利用いただけるようになりました。

●在庫管理のデータ化

エクセルで在庫管理用のデータベースを構築することで、売り上げの集計や、在庫数のチェックが容易にできるようになりました。スタッフやボランティアがいつでも誰でも管理できるようになり、これまでにかかっていた手間を大幅に削減することができました。

●値段シールの導入

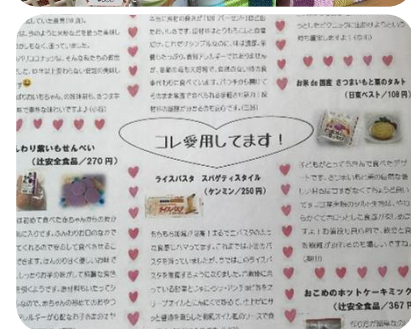
これまでは商品の値段表示は、商品陳列棚にのみ配置していました。そのために値段の確認がとてもしづらくなっていました。値段シールを導入したことで、商品の値段が一目で分かるようになり、案内板を撤廃したことで売り場のスペースが増え、すっきりと見ていただけるようになりました。

●ニュースレターでの商品紹介・レシピ紹介など

実際にスタッフが試してみた商品についての感想をニュースレターに掲載しました。掲載した商品は実際に購入数が増加していることから、効果があったことがわかります。便利な食材をより多くの方に活用してもらえる様に、今後も色々な商品のお知らせをしていきたいと思えます。

●メールでの共同購入受付

奇数月には会員・サポーターからの共同購入を取りまとめています。これまでは FAX のみの受け付けであったものを、電話やメールでも対応を可能とし、メールフォームも作成しました。

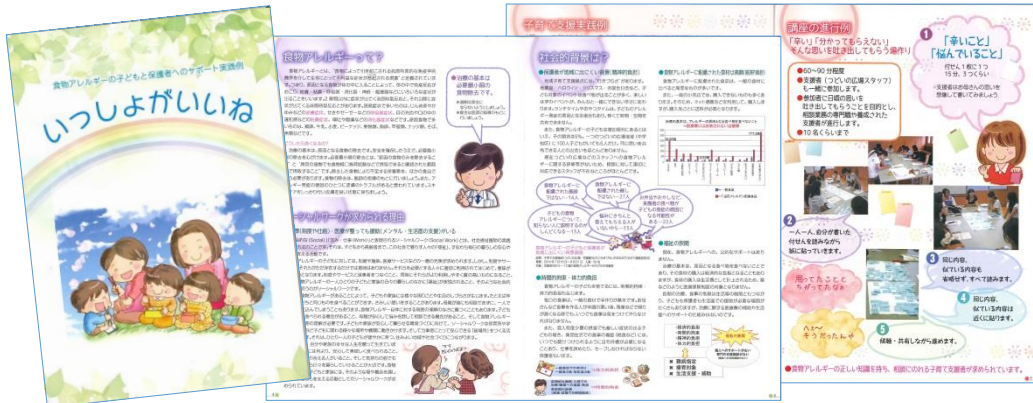


「アレルギー対応商品を扱っている店が少なく、企業に直接注文するのも送料がかかる。ぴいちゃんねっとでいろんな企業の商品を購入できるのはとても助かる」という声もいただき、サポーターズショップの存在意義を改めて見つめなおすことができました。今後はメールマガジンの発行なども視野に入れ、幅広い層への呼びかけを行っていききたいと思えます。

食物アレルギー支援プラットフォーム

3年目をむかえた食物アレルギー支援の為に検討会（プラットフォーム）では、食物アレルギーの基礎知識や、ソーシャルワークの必要性、社会的背景、取り組み例などを冊子『いっしょがいいね』にまとめました。

ソーシャルワークの必要性については、当法人や協働いただいている子育て支援の団体の皆さんが、これまで無意識のうちに取り組まれてきた相談業務などが言葉・文章となって表現されています。また、社会的背景においては、「食物アレルギーの子どもと保護者の生活」の実態調査から、その結果を数値化・文字化をして目に見える形で表しました。今後は、この冊子が各地域の子育て支援に携わる方たちに活用いただける方法を検討していくことになります。



また、実践例にもある「聞いてほしい思い」については、当法人の設立2年目に当事者のお母さんたちで作った「あのね聞いてくれる」という、食物アレルギーの啓発のための冊子も増刷することができました。10年間の増刷の思いがようやく繋がりました。



出張アレルギーの学び舎

舞鶴

アレルギーの学び舎@舞鶴 交流会編

～料理教室編～

ういので、食物アレルギー

18日 10:30-12:00
1階研修室にて

日時	タイトル・講師	講師
10月18日(水)	アレルギーの基礎知識(講師:青山三智子)	青山三智子(日本アレルギー学会専門医)
11月14日(金)	食物アレルギーと子育て支援(講師:小谷智恵)	小谷智恵(当法人事務局長)
11月29日(水)	スキンケアと塗り薬(講師:笹畑美沙子)	笹畑美沙子(エドキューター)

※この事業は平成28年度京田辺市地域共生プロジェクト事業の補助を受けて行います。



交流会



石井食品株式会社



中野産業株式会社



作ってみよう除去食
(講師:伴亜紀先生)

5年目の取り組みとなった舞鶴は、昨年度までに引き続きNPO法人まちづくりサポートクラブ主催で開催いただき、当法人は監修や講師を務めました。舞鶴では、「料理教室編」と題して、栄養士の伴亜紀先生や企業の方に来ていただいて、様々なアレンジレシピを教えてもらうという企画を実施されました。交流会では、当法人事務局長と共に主催者のスタッフの方も一緒に進行をし、今後の活動に広がりができました。

京田辺

日時	講座・講師
9/10(土)	食物アレルギーの基礎知識 講師:青山三智子(日本アレルギー学会専門医)
10/14(金)	食物アレルギーと子育て支援 講師:小谷智恵(当法人事務局長)
11/11(金)	スキンケアと塗り薬 講師:笹畑美沙子(エドキューター)
12/9(金)	作ってみよう除去食 講師:伴亜紀(栄養士)



スキンケア



子育て支援



作ってみよう除去食

京田辺での学び舎は「ばーばの手」主催で開催されました。初年度ということもあり、基礎的な講座を4つ実施しました。支援者も一緒に学ぶ場ともなり、今後のための地域のつながりもできました。

アレルギー大学

『アレルギー大学』の京都での開催も3年目を迎えました。昨年から更に開講講座が増え、基礎・初級および中級のすべての講座と実習を開講することができました。受講者数は延べ人数385名で、昨年の179名より大幅に増加しました。中にはキャンセル待ちが出た講座もありました。

●実施講座・実習一覧●

開講日	講座名/タイトル	講師	内容	受講者数
9/4 午前	【医学—基礎】 アレルギーの基礎	京都府立こども発達支援センター 小児科医長 京都府立医科大学附属病院 小児科 アレルギー外来 担当医 日本アレルギー学会専門医 青山 三智子	「アレルギーとは何か…」から始まりアレルギーの基礎全般について学ぶ講座。	30
9/4 午前	【食品学—基礎】 食品学の基礎	京都府立大学生命科学研究科 食品科学研究室 管理栄養士 佐々木 梓沙	食品に含まれるアレルギー物質について学ぶ準備のため、食品・栄養学の専門的な言葉を理解・整理する基礎講座。	29
9/4 午後	【発達とアレルギー】 食育とアレルギー①咀嚼	きょうこ歯科・矯正歯科院長 日本矯正歯科学会認定医 松井 恭子	成長とともに食の進み具合を咀嚼に注目し、食の楽しさ、食の知識等 食育で育てていきたい力について学ぶ講座。	29
9/4 午後	【発達とアレルギー】 食育とアレルギー②食育	藤森センターほっこり 放課後デイサービス「にじっこひろば」 センター長・保育士 辻 益美	家族との食事から集団での食事の仕方、食の楽しさ、食の知識等 食育で育てていきたい力について学ぶ講座。	29
9/25 午前	【食品学—Ⅰ】 アレルギーの基本	京都女子大学家政学部 教授 農学博士 成田 宏史	食品学基礎の復習をしながら、体の中の免疫の働きについても触れつつ、アレルギー物質がどのように消化し吸収されていくのかを学ぶ講座。	24
9/25 午後	【医学—Ⅰ】 食物アレルギーの臨床	田辺中央病院 小児科医員 京都府立医科大学 附属病院 小児科 アレルギー外来担当 日本アレルギー学会専門医 上原 久輝	「食物アレルギーの基礎」を理解した後、食物アレルギーの治療や検査について学ぶ講座。	27
9/25 午後	【栄養と献立—Ⅰ】 栄養と献立	京都女子大学 名誉教授 京都女子大学栄養クリニック 副クリニック長 管理栄養士 木戸 詔子	栄養素のバランスと献立の立て方を学ぶ講座。	21
10/2 終日	【離乳食実習】 離乳食のすすめ方	食と農のコンシェルジュ graine 代表 伴 亜紀	離乳食の意味や位置付け、すすめ方などを講義と実習で学ぶ講座。	22
10/16 終日	【調理実習—Ⅰ】 卵・乳に対応した給食	食と農のコンシェルジュ graine 代表 伴 亜紀	コンタミネーションに配慮した集団給食の作り方を乳、卵に対応したメニューの実習を通して学ぶ講座。	23
10/23 午前	【医学—Ⅲ】 アトピー性皮膚炎の治療と対応	内科・アレルギー科まつもとクリニック 院長 松本 哲宜	食物アレルギーとの違いや、アトピー性皮膚炎の症状や病態、原因について学ぶ講座。	17
10/23 午後	【医学—Ⅳ】 ぜん息・鼻炎・花粉症など 疾患別の治療と対応	宇治武田病院 小児アレルギー科部長 日本アレルギー学会専門医・指導医 藤本 雅之	アレルギー疾患「ぜん息」「鼻炎」「花粉症」などの各疾患の症状、病態、治療法その他、家庭での対策についても学ぶ講座。	17
10/23 午後	【医療研修②】 医療手段	滋賀県立小児保健医療センター看護師 斉藤就美、笹畑美佐子(PAE)、吉弘径示(PAE) ※PAE:小児アレルギーエドゥケーター	講義に加え実習を織り交ぜた講座。 小児アレルギーエドゥケーターによる医療現場での患者指導の実践を体験しながら学ぶ講座。	19
11/6 終日	【調理実習—Ⅱ】 卵・乳・小麦に対応した給食	食と農のコンシェルジュ graine 代表 伴 亜紀	アレルギーに対応した卵・乳・小麦除去食のメニューの調理実習。	20
11/20 午前	【医学—Ⅱ】 食品別の診断と食事指導	やすの医院 小児科、アレルギー科、内科担当 日本アレルギー学会専門医 安野 哲也	OAS、FDEIA、大豆・ナッツ・魚・果物など、応用的な食物アレルギーについて学ぶ講座。	29
11/20 午後	【栄養と献立—Ⅱ】 園・学校でのアレルギー対応給食	食と農のコンシェルジュ graine 代表 伴 亜紀	給食施設環境に応じた、原材料管理、生産管理、品質管理、安全管理と給与栄養量から食品衛生への展開、献立作成を学ぶ講座。	23
11/20 午後	【保育学校管理—Ⅰ】 ひやりはっと事例から学ぶ (園・学校でのアレルギー対応策)	京都府立医科大学付属病院 小児科 アレルギー外来担当 日本アレルギー学会専門医 土屋 邦彦	誤食事故の事例から緊急時対応、エピペンの使い方など、実際のひやりはっと事例から学ぶ講座。	26

●講座の様子●



(基礎) 食品学の基礎



(初級) 食育とアレルギー (咀嚼)



(初級) 食育とアレルギー (食育)



(初級) 栄養と献立



(初級) アレルゲンの基本



(中級) アトピー性皮膚炎の治療と対応



(中級) 疾患別の治療と対応

今年度の受講生も、食物アレルギーの子どものご家族や子どもと接する保育士・教師・給食調理員の他、管理栄養士や助産師など様々な分野の方が、それぞれが異なる立場から意欲的に学ばれていました。講座や実習の回を重ねる毎に受講者同士の交流も生まれ、相互に情報の交換などもされていました。中級修了者は述べ25名となり、2017年度に上級コースを目指したいという声も聞かれました。

●実習の様子●



(初級) 離乳食



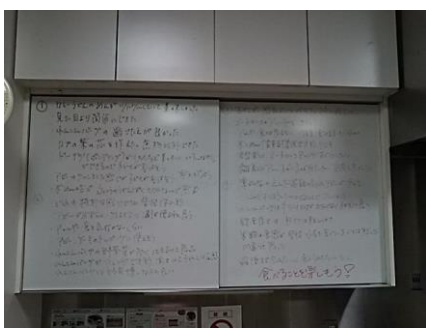
(初級) 離乳食



(初級) 卵・乳に対応した給食



(中級) 卵・乳・小麦に対応した給食



(中級) 医療手技



講師・委員会等

年度はじめから1年を通してたくさんの講師や委員会へのご依頼をいただきました。そのため、ご希望に添えずお断りしたのものもありとても残念に思っています。また7月以降には、2013年度からスタートした飲食店関係のコンサル事業を終了し、「子育て支援」関係のご依頼のみをお引き受けする体制にさせていただきました。子育て支援の現場や地域社会での食物アレルギーの子どもの子育て状況に理解が深まる機会になればと、今後もできる限りのご希望に応えたいと思っております。

【講師・監修・出展】

- 京都市
 - 1/28 まちびとカフェ(中京区地域力推進室) 講師
 - 2/13 京都市子育て支援拠点事業 研修講師
「乳幼児の食事(食物アレルギー)」
- 中京区子育て支援ネットワーク
 - 4/21 ベビーズサポート広場講師「心配しないで食物アレルギー」
 - 5/26 年間打合せ
 - 7/12 中京区子育て支援ネットワーク会議
 - 7/13 びよびよ広場 職員派遣
- 伏見区地域子育てステーション
 - 6/24,11/30 ふれあいらんど開催 アレルギー相談コーナー担当
- その他自治体
 - 6/22 京都府木津川市 民生委員・民生児童委員研修
- 同志社大学
 - 4/27 学生インターンオリエンテーション
 - 5/10 政策学部2回生ゼミアカデミックスキル(ゲストスピーカー)
 - 7/28 政策学部2回生ゼミ生発表協力
 - 6~12月 社会学部社会福祉学科 実習生受入
 - 2/24 社会学部社会福祉学科 実習生受入施設懇談会&シンポジウム
- NPO法人まちづくりサポートクラブ(アレルギーの学び舎@舞鶴)
 - 10/18 「つくってみよう除去食(鉄分)」講師:伴亜紀 監修
 - 11/2 「手軽に一工夫できる食事例」協力:石井食品(株) 監修
 - 11/29 「小麦アレルギー代替品の活用事例」協力:中野産業(株) 監修
 - 1/18 交流会「怖がらないで食物アレルギー」講師・年度振り返り
- ばあばの手(アレルギーの学び舎@京田辺)
 - 5/11 事前打ち合わせ
 - 9/10 「食物アレルギーの基礎知識」講師:青山三智子 監修
 - 10/14 「食物アレルギーの子どもと支援」講師
 - 11/11 「毎日のスキンケアと軟膏の使い方」講師:笹畑美沙子 監修
 - 12/9 「作ってみよう除去食」講師:伴亜紀 監修
 - 2/8 事業振り返り
- (一社)食物アレルギーフォーラム団体ボード
 - 8/19 定例会議
 - 9/14 第1回企業表彰式
 - 10/30 食物アレルギー支援に関わるワークショップ(主催:日本財団)
 - 12/21 定例会議
 - 1/29,30(一社)食物アレルギーフォーラム 主催
食物アレルギー国際シンポジウム&アジア会議 ポスター参加
- その他団体
 - 5/9 (特活)アレルギーっ子パパの会
アレルギー対応児童館向けお菓子製造に関する相談
 - 10/29 アトピッコ地球の子ネットワーク主催 第4回相談事例検討会
 - 11/12 NPO法人フェア・プラス ツキイチカフェ講師
 - 1/18 NPO法人生涯学習サポート兵庫
「食物アレルギーの危機管理」講師
 - 3/11 (一社)食品品質プロフェッショナルズセミナー 講師
「食物アレルギーの子ども・家族支援から見る食物アレルギー」
- 企業等
 - 5/31 セントレジスホテル大阪 研修打合せ
 - 6/13 セントレジスホテル大阪 職員研修講師
 - 7/7 阪急阪神ホールディングス(株) 社員研修打合せ
 - 11/13 阪急阪神ホールディングス(株)社員研修受入(協力:石井食品(株))
 - 11/21 大阪・兵庫BMC 社員研修講師

【商品開発・モニタリング】

- 石井食品(株)
 - 6/4,2/20 新商品(ランチBOX)開発モニタリング
- QOLトラベル
 - 5/10,6/3 事業打合せ(京都旅行)
- 全農クミックス(株)
 - 4/20,6/29 米粉ミックス粉新商品開発相談
- 日東電工株式会社
 - 6/20 新商品開発準備のための調査協力

【委員会等】

- 京都市
 - 3/6 京都おこしやすプロジェクト会議
- 京都府教育委員会
 - 6/24 第1回食物アレルギー対応委員会
 - 10/3 アレルギー対応マニュアル検討作成打合せ
 - 10/15 京都府教育委員会懇談
 - 10/31 第2回アレルギー対応マニュアル検討委員会
 - 11/30 第3回アレルギー対応マニュアル検討委員会
 - 12/12 第4回アレルギー対応マニュアル検討委員会
- 食物アレルギー支援プラットフォーム(京都府)
 - 5/26,11/24,2/17,3/13 打合せ・検討会
- 山城南子育て連絡協議会(京都府山城南保健所)
 - 6/29 第1回山城南子育てフェスタ実行委員会
 - 11/29 山城南子育てフェスタ開催(食物アレルギー講座・相談)
 - 2/8 山城南子育てフェスタEAST(3/12)打ち合わせ
 - 3/12 山城南子育てフェスタEAST
「心配しないで食物アレルギー」講師

【その他】

- 京都市
 - 5/9 市民協働推進事業インタビュー(京都市総合企画局総合制作室)
 - 6/21 門川京都市市長 訪問
内閣府表彰の報告と食物アレルギー対策について懇談
 - 7/12 お宝バンクインタビュー(京都市総合政策室)
 - 9/10 岩倉北学区 事業打合せ(京都市文化市民局)
- 京都府
 - 8/17 災害支援NPOリレーションズ説明会
 - 11/22 京都府少子化対策府民会議設立総会出席
 - 12/15 京都府びあサポートセンター視察
 - 3/20 京都府子育て支援団体認証式
- その他団体・企業・大学
 - 5/23 同志社大学 経済学部 同経会紹介来所
 - 10/12 ミネルヴァ出版(株) 出版打合せ
 - 7/11,11/11 イオンイエラーシートキャンペーン
 - 12/13 オムロン(株) ボランティアディ事業協力

【認定NPO法人申請関係】京都市文化市民局地域自治推進室

- 6/22 認定NPO法人申請準備
- 7/8 認定NPO法人(条例指定)書類監査
- 8/1 認定NPO法人(条例指定)認定審査会
- 1/1 認定NPO法人認定
- 1/12 認定NPO法人認定書授与式

11/12 NPO法人フェア・プラス ツキイチカフェ



11/13 阪急阪神HD 社員研修



3/20 京都府子育て支援団体認証式



つどいの広場

京都市子育て支援活動いきいきセンターつどいの広場事業としての委託を受け2年目を迎えたびいちゃんは、延 834 組 2,065 人の方にご利用いただきました。びいちゃんねっとのホームページを見ての来所の他に、子ども支援センターだよりや京都府のはぐみアプリを見ての来所も多く、自治体の広報により周知が広がってきています。

つどいの広場びいちゃんは食物アレルギーに配慮した施設として、0～3 才の親子の居場所と同時に食物アレルギーの社会的理解を広めるという役割を担っています。初年度の課題「つどいイベントとサポートデスクイベントの乖離」を踏まえ、来所者へのアプローチを意識し、

- ①初来所の親子に食物アレルギーに配慮した施設であること意識づけ
- ②イベントの交流タイムでアレルギーに対応したおやつを試食体験
- ③地藏盆やクリスマスパーティ、レシピ紹介などサポートデスク事業をアレルギーフレンドリーなイベントとしてへ参加しやすいプログラム作りと誘い掛け
- ④利用者へニュースレター発送ボランティアの呼び掛け

等を行いました。これらの取り組みの結果、びいちゃんねっとの活動や食物アレルギーに関心を持ち、社会的役割を理解する利用者が徐々に増えてきています。これらの取り組みを通してボランティア希望者が増え、現在では子ども連れでボランティアができる環境ができてきたことも事業成果としてあげられます。

また、地域子育て支援充実事業として拠点以外で「つどいの広場」の出張開催を実施しました。抱き方教室を中心にプログラムを組み、中京区社会福祉協議会では広々とした施設で自由な雰囲気が受け入れられ、常時 8～10 組の利用があり、半年間でしっかりと地域に定着しています。

利用者からの子育てに関する小さな不安や悩みも含めた相談のうち、食物アレルギーに関する相談は、全体の相談件数の 79 件中 31 件、約 40 パーセントを占めました。専門スタッフが適切なアドバイスを行うアレルギー相談日での相談だけでなく、日常業務の中でスタッフが聞き取る食物アレルギーへの漠然とした不安や軽微な相談も増えています。早期の小さな不安への対応が適切な受診や食物アレルギーへの理解につながると考え、今後はより適切な対応に向けスタッフのスキルアップが必要だと考えています。

一方で様々な事情で大勢の中で過ごすことがしんどい親子の居場所として設けた「ふわふわびいちゃんの日」や子育てに忙しいお母さんにゆったりティータイムを過ごしてもらおうと設けた「ちゃ・チャ・茶の日」は、まだまだ利用が少ない状況です。食物アレルギーの有無にかかわらず子育てのしんどさを軽減できるような居心地の良い場所として、より一層利用が広がるよう環境づくりに努めていきたいと思えます。

■つどいの広場企画

赤ちゃんの柔らかか抱き方教室 (5/27、6/23、7/7、8/29、9/23)
ベビーヨガセラピー講座 (10/26、11/7、12/2、1/13、2/10、3/17)
赤ちゃんと一緒にクリスマス工作 (12/12)
赤ちゃんと一緒に手づくり工作 (2/22)
ハグモミでからだほぐしっこ (2/24)

■サポートデスクとの共通企画

地藏盆 (8/5)
ベビーハロウィン (10/20)
アレルギーフレンドリー クリスマスパーティ (12/3)
パンばん伴 (コーンパン) (2/23)
ドレミファドーナツ (12/8)
かきくけクッキー (クッキー) (3/9)

■出張つどいの広場

ひとまち交流館 (5/27,6/23)
中京区社会福祉協議会
(10/5、10/12、11/2、11/16、12/7、12/21、1/11、1/18、2/1、2/15、3/1、3/15)

- ふわふわびいちゃんの日 毎月 2 回
- ちゃ・チャ・茶の日 毎月 1 回
- 食物アレルギー相談日 毎月 1～2 回実施



ベビーハロウィン 試食しながらの交流の様子



赤ちゃんと一緒に手作り工作 (クリスマス)



赤ちゃんと一緒に手作り工作 (おひなさま)



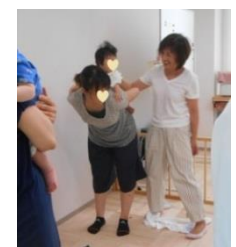
出張つどいの広場



ベビーヨガセラピー講座



ハグモミでからだほぐしっこ



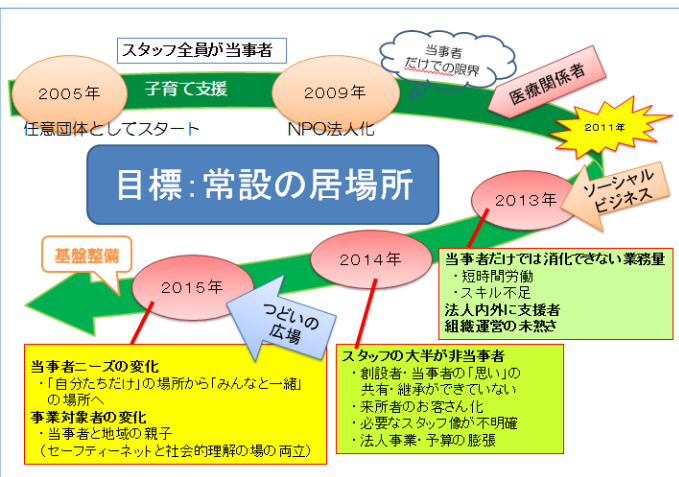
赤ちゃんのやわらか抱き方教室

組織評価・基盤強化

2016年1月からは、Panasonic サポートファンドの助成を受けて組織評価・基盤強化にも取り組んできました。2005年の設立以来、「常設の居場所」を目指して様々な事業・活動に取り組んできました。民間の助成金を活用した公的施設での月2回程度の交流の場「ふわふわかふえ（2010年度事業）」は、その原点でもあります。予約なしで来たい時にふらっと立ち寄り、のんびりお茶を飲みながら同じ思いの方たちと思いを共有したり、情報交換をしたり。そんな場所を常設したかったのです。しかしながら、場所も人も大きな費用が必要である取り組みは、なかなか現実のものにはなりません。

そんな中で2013～2014年度には、京都府・京都市それぞれの補助金を活用しソーシャルビジネスにもチャレンジしました。そしてようやく常設の居場所ができました。ところがその助成金は、収益事業もすることが必要でした。その為、飲食店やホテル等の食物アレルギーのコンサル事業をスタートすることになり、せっかくできた「居場所」を丁寧に作り上げていくことができない状況になってしまいました。

いよいよ補助金の2年の期限がせまり、ふと立ち止まり見渡した風景は10年前に目指していた形とは全く違うものになっていたのです。その大きな理由のひとつは、理念の共有がスタッフ間できちんとできていなかったことにありました。設立当初のメンバーは創設者のみとなり、新たなスタッフばかりになっていたことに加え、ソーシャルビジネスで膨らんだ事業は、それをこなすことが最優先となり、時間をかけるべき活動にも効率を優先する様になっていました。特に、設立当初から大切にしてきた「寄り添い」や「独りじゃないよを伝える」最も重要な視点が薄くなっていました。



そこで、組織として原点に立ち戻るべく、組織評価とそれに伴う基盤強化にスタッフ全員で取り組む為に、助成を申請することにしました。無事採択していただくことができ、最初に行ったのは、理念の継承・共有の徹底でした。「大切にしていること」を文字化し、スタッフに配布したり事務所に掲示したり、スタッフ全員でくり返し読み合わせることから始めていきました。そして、ぴいちゃんねっとの行っている事業の一つ一つの目的や成り立ちも、ミーティングの度に確認する様になりました。時には、ぴいちゃんねっとの初まりとなったニュースレターを第1号から読むという時間を作るなど、正に「原点」に戻ることに一生懸命取り組みました。

アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんねっとの大切にしていること

◆ぴいちゃんねっとの取り組む食物アレルギー支援事業・活動の柱
(食物アレルギーの子どもの保護者の生活の質の向上)

サポートデスク 食物アレルギーの子どもの保護者の常設の居場所作り事業

セーフティネット(子育て支援) … 保護者の孤育から脱出支援

⇒ 正しい医療の知識に基づき保護者に寄り添いながら、子どもが真ん中。

当事者主体 … 食物アレルギーの子どもの保護者は、支援の受け手にもなるが、抱い手にもなる

例：サポートデスク運営委員会

学び舎卒業生によるサークル など

企業協働 … 食物アレルギーCSR事業への支援(広報・販売・商品開発など)

社会的理解 … 食物アレルギーの有無に関わらず、社会全体で食物アレルギーの子どものを育む環境

それを「つどいの広場(地域子育て支援拠点事業)」において実施

● アレルギーの学び舎 … 正しい知識と、日常生活の準備・対応等について学び、子どもが適切な治療を受けられ、保護者が安心して食物アレルギーの子どもの子育てができる環境への支援

● 居心地の良い居場所 … 食物アレルギーの子どもの保護者が、いつ来所しても居心地の良い環境の中で、親子交流、相談援助、情報取得への支援

● 当事者の主体的活動 … 患者会・家族会の様な当事者の親子が主体的な活動を行える援助

● 地域社会との接点 … 地域の親子に食物アレルギーの子どもの子育て状況を理解してもらう活動

※つどいの広場事業は、「手法」であって「目的」ではない

ニュースレター 情報提供・発信事業(ぴいちゃんねっとの原点事業)

食物アレルギーの子どもの保護者との最初の接点

当事者への共感、「独りじゃない」ことを伝える

※ニュースレターは、ピアサポートへの入り口である

アレルギー大学・アレルギーの学び舎(京都府内各地) 支援者支援事業

支援者育成

支援拠点のネットワーク構築

災害支援 食物アレルギーの子どもの防災事業

自助・共助の普及と京都府域の子育て支援団体、家族会等とのネットワーク構築

・レスキューアレルギー(西日本防災ネットワーク)

・京都府災害復興支援NPO リレーションズ

これらの事業を、様々な地域の資源・人材とつながりながら、時に当事者(参加者)も巻き込みながら取り組めます。ぴいちゃんねっととスタッフは相互補完しながら、「当事者性」と「専門性」をもつ支援者としての関わりをベースとします。

一個人・一家庭での問題・課題が、地域社会・現代社会の抱える課題の投影であることをしっかりと認識し、丁寧に向き合える支援者としての役割を果たしていきたいと思えます。

特に、「独りじゃない」ことを伝えられるよう、「個々のスタッフ」「個々の事業」が身近な地域の中で寄り添える存在であることを最重要点とし、その為に必要となる「食物アレルギーの子どもの保護者の支援者としての資質」の向上に努めるため、社内外での研修・会議等の機会を設けます。(ニュースレター編集会議・相談業務研修・アレルギー大学・学び舎、京都市等の主催する子育て支援者研修など)

また、スタッフ同士が「当事者性」と「専門性」を補完し合える関係を築きたいと思うので、日々のコミュニケーションを大切にしたいと思えます。

私たちスタッフが、理念継承・共有に取り組むと同時に、コンサルの方には組織評価をしていただきました。ヒヤリング、スタッフミーティング・理事会への同席などを実施され、私たちの組織の状態や、これまでの取り組みについて分析をしてくださいました。

そして、改善点だけでなく、これまで10年余りの事業活動を高く評価いただきました。加えて、その10年間の成果は法人の財産であり、アウトリーチをすることで、食物アレルギーへの理解が深まるという提案もしてくださいました。

この評価がきっかけとなり、私たちが「できること」「すべきこと」「すべきでないこと」が明確になりました。そして、2016年7月には、ソーシャルビジネスの時に開始したコンサル事業を中止し、「子育て支援」の視点からの事業・活動に絞る決断ができました。

外部協力者(コンサルタント)による組織評価

- 1) 団体の基礎データの収集(所轄庁への届出書類・ニュースレター(バックナンバー)の読み返し等)
- 2) 理事会や事務局長、事務局スタッフとの打ち合わせやヒヤリングの実施
- 3) 組織診断シートの活用(理事会)

評価項目	評価内容	評価結果
経営理念・ビジョンの明確化	経営理念・ビジョンが明確に示されている	◎
事業計画の策定	事業計画が策定されている	◎
財務管理の徹底	財務管理が徹底されている	◎
人材育成の体制	人材育成の体制が整っている	◎
情報管理の徹底	情報管理が徹底されている	◎
リスク管理の徹底	リスク管理が徹底されている	◎
社会的責任の果たし	社会的責任を果たしている	◎
顧客満足度の向上	顧客満足度が向上している	◎
地域社会との連携	地域社会との連携が強化されている	◎
災害対策の徹底	災害対策が徹底されている	◎
その他		

- ⇒ 本来のミッションの共有や当事者の気持ちの伝承がきちんとされているかの確認
◎「ミッションの再確認と共有」「今までの活動や知見の蓄積の共有と活用」が必要
- ⇒ 次の10年に向けて、現在の組織や事業がそれに耐えうるのか、見直すべき点は何か
◎「理事会の機能強化」
◎「事務局体制の強化(事務局長に集中する業務の分散)」
◎「当事者のセーフティネットを第一義(自助・共助)としながらも、一般市民や社会に対する理解促進や支援の裾野の拡大(共助の仲間の拡大、公助)」
3点の視点が必要

本来の理念に立ち返り、活動を文書化&数値化



特定非営利活動法人 アレルギーネットワーク京都びいちゃんねっと

発表者:事務局長 小谷智恵さん

「食物アレルギーの子どもと保護者のQOL向上をミッションに活動しています。私たちは当事者スタッフによる任意団体としてスタートしましたが、ソーシャルビジネスを開始した2013年から創設者や当事者の『思いの共有』ができなくなり、事業・活動が空洞化してしまいました。当事者に寄り添う事を第一にしてきた元の組織体制へと戻るべく組織基盤強化に着手しました。理念を文書化して明確化した結果、ソーシャルビジネス時のスタッフは退職しましたが、新規スタッフも入り、またコンサルタント同席の理事会によって財務分析に基づいた中長期計画も立案できました。法人として『できること』『すべきこと』『すべきでないこと』がハッキリしました。」

NPOの本当の使命を改めて見せてくれた

特定非営利活動法人 子ども劇場等京都協議会 常任理事/子ども文化地域コーディネーター協会 専務理事

森本真也子さん

「アレルギーネットワーク京都びいちゃんねっと」は、ソーシャルビジネスを数年やったあとスッパリ止めようと思ったことが凄い勇気ですね。その決断を経て今があるのだと思います。「できること・できないこと・すべきでないこと」を明確にできたのは、ご自身のパッションが明快だったからでしょう。「私益の究極は公益だ」というNPOの使命の典型を感じさせてくれる成果報告でした。



流行に巻き込まれない本物の強化プログラム

特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド

運営委員長 山岡義典さん

今回の成果報告は、みなさん非常に分かりやすくまとめていらっしゃるって興味深かった。私は当初、組織診断を「健康診断」や「耐震診断」に例えて考えていましたが、今はちょっと違ってたかなと感じています。もしそうだとすれば、それは「経営診断」に当たるのでしょうか、そうなら中小企業診断士にお願いすればよいわけです。NPOの組織診断という場合は、健康だけでなく「人生や生き方」の診断であり、また耐震だけでなく「住まい方」まで診断するものです。このファンドの意義の一つは、そのような診断のできるコンサルタントを各地に育ててきたことでもあります。

今回の報告書を読んでハッとした一節があります。それは「これまでさまざまな外部組織・中間支援団体の介入を受けてきたが、組織としてめざす形が明確になったため、流行に巻き込まれない堅固な方向性が築けた」という一節。ソーシャルビジネスやクラウドファンディングなどを使いこなすのはいいのですが、それだけに頼ってはいけません。敢えてそれらから離れる決断をしたということは、凄いと思いました。私は今回の報告に際して、この組織基盤強化が普遍性を持つ本物のプログラムになってきたと確信しました。

びいちゃんねっとが報告したことへのコメントです



竹安役員より助成金贈呈式

また、1年目の取り組みでは「アウトリーチ」の場の実現や「社会的理解」への取り組みに発展させるという目的にまでは、達することができませんでした。その為2年目の助成を申請した結果、引き続き採択いただけることになりました。

2017年1月からスタートしている2年目の組織基盤強化の取り組みとして、積み残した「アウトリーチ」「社会的理解」に取り組むとともに、その取り組みから更に発展し、「子育て支援からの食物アレルギー支援」への政策提言を行っていきたいと考えています。

← 助成金贈呈式

正会員・フレンズ・サポーター募集のご案内

ぴいちゃんねっとの事業・活動は、「食物アレルギーの子どもと保護者の QOL（生活の質）の向上」を目的に行っています。これには「当事者支援」と「支援者支援」「社会的理解」3つの支援が大切だと考えています。安心して、継続した支援を行うには、皆様からの資金面でのサポートが大きな力となります。

2017年度から正会員・サポーターにフレンズが仲間入りしました！

「フレンズ」は、

「利用者」と運営する「スタッフ」という一方的な関係ではなく、「一緒に活動していく仲間でありたい」という思いを込めて命名しました。実は、他にも「ファミリー」などの名称案も出しましたが、内輪で閉じこもることなく、アレルギーの有無に関係なく仲間の輪を広げていけるようにという思いも込められています。



種別	名称	会費	特徴	
正会員		10,000円	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが毎月郵送されます。 ●ぴいちゃんねっどで取り扱っている商品を5%OFFで購入できます。 ●緊急時安否確認システムに登録できます。 ●イベントや講座に無料または割引料金で参加できます。 ●当法人の総会での発言権・議決権を有し、当法人の事業・活動を実施・運営することができます。 	
フレンズ	個人フレンズ	3,000円	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが毎月郵送されます。 ●ぴいちゃんねっどで取り扱っている商品を5%OFFで購入できます。 ●緊急時安否確認システムに登録できます。 ●イベントや講座に、無料または割引料金で参加できます。 	
	団体フレンズ	5,000円 ※イベント参加は1回につき2名まで。		
サポーター	個人サポーター	個人：3,000円～ (以降1,000円単位で任意)	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが毎月郵送されます。 ●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。 ○イベントや講座の参加や、商品購入に対する割引はありません。 <u>食物アレルギーの子どもと保護者を支援したい！という方向け。</u> 	
		団体：5,000円～ (以降1,000円単位で任意)		
	企業サポーター	企業：30,000円～ (以降1,000円単位で任意)		<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが毎月郵送されます。 ●サポートデスクを商品のモニタリングや広報などに利用できます。 ●ニュースレターへ無料で広告を掲載できます。 ●ぴいちゃんねっどのホームページにバナーやリンクを掲載できます。 ●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。
		個人事業主：10,000円～ (以降1,000円単位で任意)		

※ぴいちゃんねっどは2017年より認定NPO法人となりました。認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すことによりNPO法人の活動を支援することを目的としており、下のような税制上の優遇措置を受けることができます。

地域のためにできること 寄附という応援のかたち

京都市

京都市では、市民活動を市民が支える社会の構築に向けて、寄附を通じた市民の社会参加と寄附を財源とするNPO法人の活動を促進しています。

認定(仮認定)NPO法人への寄附者に対する税制上の優遇措置

認定(仮認定)NPO法人とは、NPO法に定める基準に基づき、所得税の寄附金控除等の対象となるNPO法人として所轄庁が認定(仮認定)したNPO法人です。

国税と地方税あわせて、寄附金額の最大50%が税額から控除されます。

所得税額の控除額
→(寄附金額-2,000円)×40%

住民税額の控除額
(京都市と京都府がともに条例で指定している場合)
→(寄附金額-2,000円)×10%

個人が認定(仮認定)NPO法人に1万円寄附した場合の税額控除例
「寄附金控除」を受けるためには、確定申告を行う必要があります。



あなたも「寄附」というかたちでNPO法人の活動を応援してみませんか。



NPO法人にとっての寄附とは？

社会の様々な課題の解決に向けて公益活動を行うNPO法人にとって、財政基盤の安定化を図ることは重要な課題であり、特定の財源に依存しない財政面での自立につながる寄附金は、貴重な財源の一つとなっています。

詳しくは、「京都市自治会・町内会&NPOおうえんポータルサイト」を御覧ください。

京都市 NPO おうえん 検索